



より良い運営に励み イメージアップ

健康マージャン主管団体／
宮城県麻雀段位審査会・仙台市健康マージャン推進実行委員会
山岸次雄会長

「先日、仙台市の泉体育館で予選会を兼ねたリハーサル大会を行いました。仙台市は特に健康マージャンが盛んで、市内外から304人の選手が集まりました。これほど多いのは全国的にみても珍しいです」

健康マージャンは「お金を賭けない、たばこを吸わない、酒を飲まない」の「3ない」がモットー。

「参加者同士のコミュニケーションを図るにも、脳の体操にも、もってこいの遊び。震災前から大会会場の予約や設営、人員配置、審判の選出といったさまざまな準備をしてきました。リハーサルも終わった今、やっと一段落したところ。今後は当日のプログラムの確認や選手の対戦リスト作りに入ります」

健康マージャンがねんりんピックの正式種目になったのは、2007年のいばらき大会から。全国麻雀段位審査会の委員長を務める山岸さんは、それ以前から開催県に嘆願に訪れるなど、健康マージャンの普及活動を根気強く行ってきた。

「今年はプレー人口の多い宮城・仙台での大会だから、われわれ健康マージャン業界の注目度も高い。より良い大会運営で健康マージャンのイメージアップにつなげ、県民・市民にマージャンの良さをもっと知ってほしい」と語る。



駆け引きに集中する選手ら（リハーサル大会）

オリジナル曲でパフォーマンス

式典参加校／宮城広瀬高校 吹奏楽部顧問 小幡宏二郎先生



ねんりんピックの総合開会式では、幼稚園児からシニアまで幅広い世代が、全国から集まる選手や観客の前で演奏を繰り広げる。

宮城広瀬高校（青葉区）の吹奏楽部も、その団体の一つ。マーチングバンドの強豪校として磨き抜かれたパフォーマンスを披露する。

顧問の小幡先生は話す。

「このような大きな式典で、しかも世代の違う方々の前で披露する機会は少

ないので、とても楽しみにしています。オープニングにふさわしいものを行えるよう、熱心に練習しているところです」

曲目はチーム名でもある「カレジマス・ナイツ」。「勇敢なる騎士たち」という意味の私たちのオリジナル曲。この大好きな曲で、新しいステージをつくっていければ、このような形で地元貢献できるのもうれしいです」

“食材王国”ならではの料理を



献立部会／及川健部会長
（東北割烹研究会 13代目会長）



宮城の食材や郷土料理をふんだんに盛り込んだ弁当

ねんりんピック期間中に選手などに提供される昼食弁当や夕食・朝食の献立例を考案、決定した。献立作りの中心となったのは、及川さんら県内の調理人で行く「みやぎ食材伝道士」や食に関する各分野の専門家たち。

「『食材王国みやぎ』というほどだから、宮城の食材や郷土料理をたくさん盛り込んだ内容にしました。もちろん彩りや栄養バランスも考慮し、10回ほど手直しを繰り返して完成させた力作です」

弁当は、日によって牛たんの塩焼きやはらこ飯、蔵王純和豚のしょうが焼き、仙台みそ田楽、さんま香草フライなどが盛り込まれる。一食でも代表的な宮城の味覚を十分に楽しめる。

「舌で宮城を感じてもらえれば、うれしいです。昨年のも東日本大震災で生産者が打撃を受け、調達に難しい食材もあるでしょうが、そういった生産者の応援にもなればと思っています」

さんまのコンフィサラダや松島かき豆乳蒸し、はっと入りミネストローネスープといった献立例10種類のレシピは、6月29日（金）まで県庁18階で一般にも配布している。



暑さの中でも、元気に練習に励む生徒たち

ねんりんピック舞台裏レポート その1
式典参加校 献立部会／種目主管団体

運営を支える、盛り上げ隊

にぎやかなPRイベントや除幕式もやることながら、その裏で人知れず多くの人が、ねんりんピック宮城・仙台大会を成功させようと活動している。